

「従是右木屋瀬・従是左芦屋」の道標となる追分石。長崎街道木屋瀬宿、同涼天満宮から来た道がここで唐津街道と合流する。



出光佐三氏の生家



国の登録有形文化財。普段公開されていない内観は赤間宿まつりなどの時に好意で公開される。提供：出光佐三展示室



### 出光興産創業者、 出光佐三氏の思想を知る。

小説、映画と「海賊とよばれた男」で近年、再度脚光を浴びた宗像出身の出光佐三氏。その功績を称える展示室がこの通りにある。「赤間宿観光ボランティアガイドの会」の皆さんにより運営され、ガイド(有料)も丁寧に行ってくれる。氏の偉業や経営哲学に関心がある方や、赤間宿通りの歴史を知りたい方は、こちらでさらに詳しい情報を知ることが出来る。

# Atama 赤間

Theme 風情

About 赤間地区は東西でJR赤間駅から福岡教育大学まで。さらに南に伸びる広い校区。元々は赤馬(あかま)と呼ばれていた地域から広がった。

かつて豊臣秀吉が難攻不落の城と恐れ、取り壊しを命じた蔦ヶ嶽城があった城山を背に、JR教育大前駅から下ると新旧の街並みが入り混じった通りが現れる。唐津街道の宿場町「赤間宿通り」。江戸時代には多くの人々の往来で栄え、早川勇や出光佐三など歴史に名を刻む人物が現れた土地だ。



街道の駅 赤馬館



出光佐三展示室



コーヒー豆の焙煎販売を行う「ハナウタコーヒー」。古民家を改装したお店に浴衣が似合う。



地域で活動される一級着付け技能士のみなさんが、手取り足取り着付けからヘアセットまで安心して行ってくれる。



**2 大家族主義**  
彼は戦後、全ての財産を失うが千人の従業員を誰一人としてリストラせず、みんなを家族と考えた。「会社を支えるのは家族同然の店員だ。これが唯一の資本であり今後の事業を作る。」と語っている。

**3 互譲互助**  
石油が海外から入りづらくなり、値段が高騰した際にも、彼は普段の値段で販売した。「互いに譲り、互いに助け合う。それは平和のもとであり、日本では道徳の根源である」と説いている。

今回取材したガイドさんから聞いた出光佐三氏は、「日本人とは「平和とは」の考えを常にもつていたように感じる。これらは宗像の子ども達だけでなく、日本、世界に通じるものだと感じた。皆さんも赤間宿にその思想をぜひ感じに訪れてほしい。

**1 人間尊重**  
「仕事は人間が本位。資本よりも人間。組織よりも人間。法律、規則は人間によって生きる。」など人間のことを第一に考える人物だった。

**この街の偉人たち**  
明治維新の頃には宗像で育った幕末の志士、早川勇たちがこの宿場町を往来し、中岡慎太郎と西郷隆盛を引き合わせたり、五卿西遷を実現するなど時代の転換点を作った。近代では出光興産の創業者、日章丸事件では英国と裁判で闘った「出光佐三氏」の出身地でもある。氏は多くの私財を投じて宗像や日本に貢献した。さらに近隣の小学校では氏の教えを道徳の時間などで学んでいるのだそう。彼の掲げた3つの主義がある。

赤馬の街の繁昌と衰微、そしてこれから。  
赤間は元は赤馬と呼ばれていたとされる。神武天皇が東征の際にこの地に立ち寄り、赤い馬に跨った先祖神と会った事から由来している。さらに七浦三里と呼ばれ、三里(約12km)先の七ヶ所の浦(漁村)から物資の集散地として、江戸から明治にかけ唐津街道の宿場町として栄えた。

現在は鉄道や国道3号線が敷かれ、交通網が発達し、近年では商業施設が周囲に建った。かつての賑わいはなくなり、古い街並みは徐々に今の住宅に変わってきている。しかし普段は静かになった通りも、酒蔵開きと同時に終わる赤間宿まつりは例年2日間で2万人が訪れる。そんなこの通りに魅せられ、商いを始める若い世代も入って、新たな往来が生まれている。